



寺子屋だより

2020.6

一般社団法人寺子屋いづみ

新しい生活が始まりました。まだまだ大人も子どもまた新しいスタイルになれるのに時間がかかると思います。ここ数ヶ月いろんなことを考えたと思います。私も自分の子どもとじっくり話したり、なかなか会えない一緒に住んでいない子どもの家族とも話したり、いつもはじっくりやれなかったことができました。そしてオンラインという初めての試みもなかなか難しいこともありましたが、新しい発見もあり、子どもたちに遠くオーストラリアにいるロックダウン中だった元スタッフのみづき先生から語りかけていただくこともできました。そんなことを体験できたのもこの期間があったからです。一方で経済的に大変なことも起きています。寺子屋は社会福祉協議会とも連携しながら動いています。子供家庭支援センターとも連絡を取り合っています。どうぞ何かご心配なことがありましたらご遠慮なくご相談ください。

* 今月の時間割は全て学校の時間割に合わせます。寺子屋では朝は9時から午後は小学生は13時、中学生は14時からの授業になります。ご不明な点をご連絡ください。

* 6月第4週目から学校が通常時間割に戻るなのでそこから寺子屋も通常時間割に戻します。またオンラインを引き続きご希望の場合は対応させていただきます。

* 中学のテストは7月後半に予定されています。引き続き土曜補習も行いますのでどうぞご利用ください。

* お弁当の販売をしています。1食300円です。3週目まで月曜、水曜、金曜、夕方が木曜になります。詳しくは別紙寺子屋ゆるやかネットをご覧ください。

～大人達からこれからは生きる子どもに発信できることを～

緊急事態宣言が発令されたあと、直感的に「子どもたちを置き去りにしてはいけない」と思いました。いつの時代も子どもは国の政策から取り残されることが多いも

のです。大人も不安に思っていて先の見通しも立たない中、子ども達はなかなか自分の気持ちを言葉に出すことはできません。

今回そんな思いに対してたくさんの大人たちがオンラインで子どもたちに語りかけてくださいました。

第1回目はオーストラリアから元スタッフのみづき先生。日本よりも先にピークを迎え先に解除の見通しが出てきた話をしてくださいました。ちょっとホッとした時間でした。

第2回目は武蔵新城のパン屋さんのオリーブクラウンさん。現在引き続きロックダウン中のインドからお話してくださいました。日本よりも厳しい不自由な生活を強いられている中、生き生きとした表情で話す長岡さん。インドの首相が「雇っている人を解雇しないでください」と呼びかけたことを知ると「日本はどんどんやめさせているのに優しい国だと思いました」と感想が。

第3回目はゆるやかネットの広報を作ってくださいている一橋大学非常勤講師の西岡早智子さん。会社やお店の広報ってどんな仕事？というワークショップを交えながら子ども達からは面白いお店の経営方法が出て頭が和らいかなあと感心しました。

第4回目は長野県黒姫山から浄土真宗本願寺派終北山明専寺月原秀宣さんがお寺の中から本堂の様子などを映しながらお坊さんの仕事についてお話してくださいました。日本にはコンビニの数よりもお寺や神社の数の方が多いと聞き、ぐっとみじかに感じた子ども達。「コロナのなかで不安な日常を感じていると思いますが今ある命の奇跡に感謝しましょう」と語りかけてくださいました。

第5回目は安藤玲子さん。セタゼミや子ども食堂のボランティアさんをしてくださいています。安藤さんからはテレビ制作のお仕事について番組ができるまでいかに時間を費やすかをお話していただきました。子ども達は興味津々でしたが、それよりも安藤さんの「人生思い通りにいかないことが多いけれど結果的に全てに意味がある。元気が一番」の言葉に勇気をいただきました。

第6回目は磯貝多香帆さん。中学3年間いじめられ続けた社会人になった息子さんとの会話から子ども達にメッセージを。「透明人間をしていた息子がそれでも何かに挑戦することをしたほうが良い」と話していただきました。個性の真逆な磯貝さん親子に対して一人の生徒さんが「個性が全く逆だけど求めあっている親子だとわかりました」と発言してその言葉に感動した大人達でした。